
作品タイトル：Disc Juicer

制作者名：崎山 瑛巳
所属：武蔵野美術大学造形学部デザイン情報学科
メールアドレス：kamyu224@gmail.com

共同制作者名：白石 学
所属：武蔵野美術大学
メールアドレス：manasira@musabi.ac.jp



インタラクティブ立体物、幅 180mm× 奥行 153mm× 高さ 90mm、2015 年

この作品は、新しい楽器の提案ということテーマに制作したもので、レモンの部分を絞るように回すことでDJのスクラッチのような音が出て、まるで自分がDJをしているかのような気分を味わえる。

レモンとDJを組み合わせることで表現しているものが二つある。一つはレモンを絞るときのギュッと回すときの感覚であり、それはDJのスクラッチ音で表している。二つ目はスクラッチ音の役割である。DJはスクラッチをすることによって曲に味付けをする。その味付けという役割を、揚げ物や焼き魚などに風味や香りを付けるレモン汁で表現している。

ターゲットには、楽器に興味があるが演奏することができない人を設定している。そのためモチーフは主旋律を奏でる楽器ではなく、リズムを奏でる楽器にした。なぜなら、例えばピアノやギターなどの主旋律を奏でる楽

器は、演奏して楽しむためにはある程度技術を必要とする。一方打楽器などのリズムを奏でる楽器は叩いたりするだけで演奏できるため、基本的には技術がなくても楽しむことができる。そのような理由から、絞るという簡単な操作でDJのスクラッチ音を鳴らすことのできる作品にした。

仕組みは、回すレモンの部分が可変抵抗と繋がっていてその値がArduinoに送られるようになっている。Arduinoはパソコンと繋がっていて、Arduinoから入ってきた情報をpuredataで読みこみ、可変抵抗の値が変化している間にパソコンからスクラッチ音を出力する。